

中心市街地にパソコンをキーワードとした交流施設を設置
「まちの機能」を増やして来街者層の拡大を図った

新庄TCM(株)

機関名	新庄TCM(株)		
所在地	山形県新庄市沖の町10-18		
電話番号	0233-28-8319		
地域概要	(1)管内人口 41千人	(2)管内商店街数 7商店街	
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数 1商店街	(2)会員数 95商店	
	(3)空店舗率 12.3%	(4)大型店空き店舗数 1店	
商店街の類型	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成15年度	空き店舗対策事業	・インターネットのフリースペース開設 ・パソコン塾開講
	総事業費	3,405千円

【事業実施内容】

1. 背景

新庄市は、山形市の北、新庄盆地に位置する人口4万1千人の都市である。古くは新庄藩の城下町として栄え、近年は2本の国道とJR奥羽本線・陸羽東線・陸羽西線が交差する東北地方の交通の要衝として発展してきた。

近年、新庄市の中心市街地は大規模店の郊外化・公的施設の分散等の理由により、居住人口の減少、空き店舗の増加といった現象が見られ、空洞化が進展している。

新庄TCM(株)では、平成11年12月に山形新幹線が新庄まで延伸したのを機に、来訪者を中心市街地に誘引することを目的として、平成13年度に空き店舗を活用した「手づくり作品」、「伝統工芸」の店を2店舗出店した。さらに平成14年度には「地産地消・安全な食品」をキーワードにした食品販売店を出店しており、集客イベントを積極的に実施した効果もあって、地域に定着しつつある。

このような状況のもと、平成15年度は中心商店街の機能を多様化させ、来街者の増加を図ることを目的に本事業を実施した。



新庄市の位置（新庄市役所HPより）

2. 事業内容

中心市街地を利用する要素を増やして来街者数の増加・来街者層の拡大を図り、中心市街地を活性化させることを目的に、パソコンをキーワードとした施設を開設するとともに、各種パソコン教室を開講したほか、情報発信ネットワーク作り研究会を開催した。

運営に関してはNPO団体「PCレスキュー」と提携し、利用者が時間にとらわれることなく施設を利用できる体制を整えた。



「パソコン寺子屋」外観

(1) 施設概要

- ・施設名 「パソコン寺子屋」
- ・所在地 新庄駅前通り商店街内
- ・開設年月 平成15年9月
- ・開設時間 9:00～20:00
- ・施設の構成 フリースペース部分と教室部分に分かれたレイアウト

(2) 事業内容

① フリースペースの設置

無料でインターネットを体験できるコーナーを作るとともに、初心者には利用方法の説明・指導を行った。また、パソコン持参者にも無料で場所を開放し、ビジネスマンや高校生の利用を促した。

② パソコン教室の開講

・フリースクール

開店時間中いつでも都合の良い時間帯に受講できるように、パソコン初級・ワード・エクセル・ホームページ作成講座を開講した。

・在宅ワーカー育成支援講座

10月からの3ヶ月間、パソコンを用いて在宅ワークを行うためのスキルアップ講座を実施した。

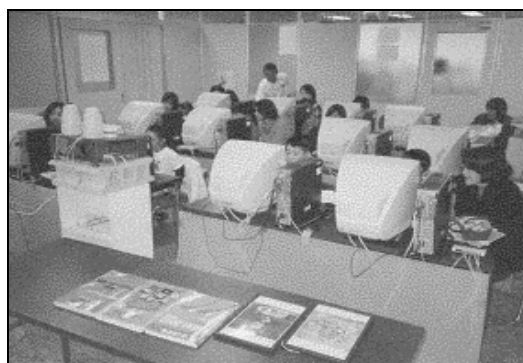
・高齢者パソコン教室

高齢者を対象にパソコンの初歩から、ホームページ作成まで受講者のレベルに合わせて指導を行った。

・幼稚園児パソコン体験教室

・小学生向けパソコン教室「パソコンキッズ」

小学生向けパソコン塾のPR版として親子パソコン教室を開講した。



パソコン教室の様子

③情報発信ネットワークづくり研究会の立ち上げ

中心商店街の利用を促進するための情報提供に関する勉強会を開催し、携帯電話とパソコンを組み合わせた情報発信の方法と具体策の検討を行った。

【 効 果 】

1. 商店街との連携

中心商店街には物販業が多いため、売出しイベントでつながりを持てるか心配されたが、逆に「ばそこん寺子屋」がイベントの裏方部分を担当することで、今まで商店街に無かった役割を担うことができた。

2. 来街者の行動

中心市街地を使いやすくし、時間消費の場・たまり場としての街の機能を増やすことを目的として「ばそこん寺子屋」を開設した。以前は中心市街地にこのような店舗が無かったことから、高校生を中心に利用者層が広がった。

3. 情報発信の拠点

情報発信ネットワークづくり研究会を立ち上げたことで、子育て支援グループのメンバーが定例会の場所として利用するようになったことを手始めに、パソコンから携帯電話へ地域イベントの情報を発信したり、子育て支援のウェブサイト「ママナビ・ステーション」を立ち上げるなど、地域情報を発信するための基点として利用されている。



「ばそこん寺子屋」チラシ

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 事業費の確保

パソコン教室の受講料収入を家賃に充当して運営費を捻出する予定だったが、現在は目標額の6割ほどの収入しかない。webサイトの掲載料等を事業費に充当しており、今後は安定した収入源を確保していく必要がある。

2. 事業実施のノウハウ

中心商店街の衰退を危惧、懸念している市民が多く、「何とかしたい、何かやりたい」というグループ、団体が生まれてきている。まちづくり会社としては、単体で動くのではなく、目的をもったグループを結びつけ、コーディネートしていくことでより相乗効果を高められるのではないかと考えている。こうした全体的な枠組みで事業展開を行うためのノウハウとタウンマネージャーが必要となる。

新庄TCM(株)

【事業実施のポイント】

空き店舗を埋めるだけでは商店街の集客効果は小さいことから、商店街の各店及び他団体等と連携した集客策を展開していく必要がある。事業の全体像を提示した上で各自が担当できる分野で有機的に連携し、効率的に事業を遂行していくことが重要である。

【関連URL】

新庄TCM株式会社 <http://www9.ocn.ne.jp/~s-tcm/>